

## 只見スポ少が優勝 櫻木旗争奪少年剣道大会

6月9日開催の「第30回櫻木旗争奪少年剣道大会」で小学生16チームが出場した団体の部で「只見スポーツ少年団A」が優勝しました。

また、小学生個人の1部で新国太陽君が準優勝、小学生個人の2部で齋藤結君が準優勝となりました。

○只見スポーツ少年団A（団体）

先鋒：吉津 隼馬  
次鋒：鈴木 伶菜  
中堅：坂内 夏海  
副将：目黒 拓海  
大将：齋藤 結



▲優勝した只見スポ少の皆さん

## 明和スポ少が優勝 ファミリーマートカップ

6月1日、2日の2日間にわたり只見町の町民体育館などで開催された「ファミリーマートカップ 第33回全日本バレーボール大会小学生大会県会津地区大会」で女子24チームが出場した中、予選リーグ、決勝トーナメントを勝ち進み明和スポーツ少年団が優勝しました。

6月29日に開催された県大会では惜しくも敗れてしまいましたが、明和スポーツ少年団は会津地区優勝という素晴らしい成績を残しました。



▲優勝した明和スポ少の皆さん



▲朝日小児童による花壇の草むしり



▲朝日婦人会の皆さんによるワックスかけ

## 朝日小学校・朝日婦人会 朝日地区センターで清掃ボランティア

6月6日に朝日小学校の児童約40名が朝日地区センターを訪れ、館内の清掃や花壇の草むしりなどの美化活動を行なっていました。

また、16日には朝日婦人会22名の方にも館内の清掃、床のワックスかけなどの作業を行なって頂きました。

多くの方が利用される地区センター。館内も広いので通常の清掃だけではなかなか綺麗にすることは難しいです。今回の清掃ボランティアでは普段手が回らない所の掃除や作業を行なって頂きました。作業して頂いたみなさん本当にありがとうございます。

# 只見の「あがりこ」を知る！

## —「あがりこ」の講演会と観察会—



7月22日(月)まで開催されている企画展「あがりこの生態と人々の関わり」に併せ、ブナセンター講座(6月8日)と自然観察会(6月9日)が行われました。

### ブナセンター講座「歴史遺産としてのあがりこ」



▲鈴木和次郎氏による講座のようす

今回の講座は、ブナセンター館長の鈴木和次郎氏を講師として「あがりこ」について講演を行いました。「あがりこ」とは、幹や枝を切った後にわきからたくさんの枝が伸び成長した特異な樹形を言います。

薪や炭の材料や家畜の食害から樹木を守るなど様々な目的で樹木の伐採、利用を行った結果、あがりこ型の樹形が形成されたそうです。只見には、蒲生地区の旧真名川集落周辺に“ブナのあがりこ”、旧黒沢鉱山付近には、“コナラのあがりこ”、

旧黒沢鉱山付近には、“コナラのあがりこ”が見られます。「あがりこ」は、人による森林利用の歴史を残す“歴史的遺産”であるということ、わかりやすく説明していただきました。聴講された方々から、最後に様々な質問が出るなど、「あがりこ」に対する関心がより深まった講座となりました。

### 梁取『学びの森』と大曾根湿原での自然観察会

当日は天候にも恵まれ、エゾハルゼミが鳴くなど初夏らしい陽気の中で観察会が開催されました。「学びの森」は、福島県南会津農林事務所が整備し、かつては明和小学校などが野外学習の場としても利用していたブナの二次林です。林内には、ミズナラを中心に「あがりこ」も見られます。現地では、ブナセンター館長の鈴木和次郎氏からブナ二次林の成り立ちと「あがりこ」樹形の形成過程の説明を受け、実際の「あがりこ型樹形」を観察、森林や樹木に残る人々の利用の跡を身近に見ることができました。

その後、町の天然記念物に指定されている「大曾根湿原」に移動して湿原とそこに生育する植物の観察を行いました。この湿原は、戦時中に食糧増産のため農地化が計画され水抜きを行った結果、乾燥化が進み、さらに戦後にはコケや植物の盗掘も行われたとのこと。貴重な自然を守っていく必要性を感じる観察会となりました。



▲大曾根湿原



▲学びの森